

「仕える」

1. はじめに

- この箇所はイエス様が過越の祭のため3度目のエレサレム入りをされ、その時、同じく祭りのため上って来た人々の中に、幾人かのギリシャ人（改宗者）がいた。彼らはピリポにイエスにお目にかかりたいと言って頼んだ。このことが契機となり、イエスのメッセージがなされた。それは、十字架と復活を預言する「人の子が栄光を受けるその時が来ました。」（23節）という重要なメッセージとなった。

2. 本文

- **十字架と復活**について。
 - ヨハネは十字架の死と言っていますが、私たちはこの節を十字架に限定して考える必要はありません。聖書は十字架と復活を1セットとして、神のみ旨の現れ（ヨハネ2：19）として伝えます。ヨハネも同様のことを考えているとおもいます。
 - イエスの十字架の死とよみがえりは**助け主によって弟子たちはその意味を認識**しました。（ヨハネ2：22）十字架と復活を総合したみ言葉には次の言葉があります。
 - * 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。（ローマ4：25）
 - * それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつく**バプテスマ**を受けた私たちはみな、その死にあずかる**バプテスマ**を受けたものではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかる**バプテスマ**によって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。（ロマ6:3,4）
 - * 十字架と復活は私たちに「救い」の門が開かれたということを意味します。**十字架は罪なき方が私たちの罪を負い、それゆえに、神は和解してくださいました。復活は死の支配にある私たちを解放してくださいました。救いへの道を歩かなければなりません。問題はイエスを信じた私たちは、どのような生き方が望まれているのか、ということ**です。
- 「仕える」26節
 - * 十字架と復活の意味を私たちの「救い」「洗礼を受けたこと」「信仰」からみれば、様々な形で読み取れます。私たちの「救いの門」が開かれたということについて、イエス様は「わたしに仕えなさい」とアドバイスします。それはイエス様も同じことでした。
 - * キリストは神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。キリストは人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。（ピリ2:6-8）

3. おわりに

- 十字架のメッセージには私たちの「救い」の約束だけでなく、その道をどう歩むかが示されています。
- 私の子供たちよ。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。（ガラテヤ4：19）
 - * 心にキリストが形造られてはじめて「仕える」「従う」という言葉が現実のものとなる。